

# 星が丘地域学校園 (園内の学校：星が丘中学校，上戸祭小学校，昭和小学校，戸祭小学校)

- 1 教育ビジョン 「未来を拓く豊かな社会性の育成」
- 2 授業力向上プロジェクト研究テーマ 「コミュニケーション能力の育成」
- 3 研究内容

## 【星が丘中学校】 「思考力・表現力の育成」

本校では生徒の思考力・表現力を高めるため、各教科等において言語活動を充実させた授業展開を工夫し、コミュニケーション能力の育成を図っていくものとした。各教科では、日々の授業の充実に取り組んでいる。また、教科の壁を取り払うことで、授業公開・授業研究会を行い授業力の向上に向けて取り組んでいる。

- (1) 「言語活動の充実」に向けた各教科による授業公開
  - 社会：作詞活動を取り入れた地理学習の工夫 (世界の諸地域)
  - 技家：プログラム作り 4 課題
  - 理科：モーターのしくみの話し合い など
- (2) 授業力向上のための授業研究会
  - 方法：付箋紙 (青・黄・赤) を利用した授業検討
    - 青→コミュニケーション能力の育成に効果的だったこと
    - 黄→コミュニケーション能力の育成に問題が見られる点
    - 赤→具体的な改善策



放課後に行われる授業研究会



授業研究会での成果物の展示

## 【上戸祭小学校】 「言語活動や学び合いを通じたコミュニケーション力の育成」

昨年度に引き続き、算数科を中心に研究の視点「学び合いを通してより合理的な解決方法の気づきを促す授業展開の工夫」を設定し、1 単位時間の中に「自力解決→学び合い→全体の練り合い」の流れをつくることによって、学び合う力やコミュニケーション能力の向上を図ってきた。

- (1) 学び合いの場の意図的設定
  - 学年の発達段階に応じて、ペアや小集団による学び合いの場を意図的に設定し、自分の考えを友達と伝え合ったり、よりよい解決方法を練り合ったりする活動を充実させてきた。
- (2) 考えを説明する場の設定
  - 全体での話し合いや練り合いの場面では、個々の考えやグループで練りあげたことを説明し合うことで様々な考えの共有化を図り、それをもとにさらに学習を深められるよう配慮した。



2年 算数科「時こくと時間」での学び合いの様子



3年「表とぼうグラフ」での説明活動の様子

## 【昭和小学校】 「一人一人を伸ばす授業の創造 ～『わかる・できる喜び』が感じられる授業をめざして～」

「わかる・できる喜び」を児童が感じられるよう、特別支援教育の視点を取り入れ、課題提示や学習活動の工夫、個に応じた支援の工夫をし、一人一人を伸ばす授業の創造を目指した。

- (1) 課題提示の工夫 (第 4 学年体育科の実践)
  - ・大型掲示物により、ポートボールの学習の流れ、本時の学習の流れ、練習の仕方、試合の順番、審判の班、これまで練習してきた作戦が確認できるようにした。
- (2) 学習活動の工夫 (第 2 学年音楽科の実践)
  - ・グループの話し合いを活性化させるため、ホワイトボードを活用した。マグネットで楽器や演奏の順序を簡単に入れ替えられるようにしたため、話し合いや練習に集中して取り組む様子が見られた。マグネットやペンで簡単に直せるため、グループでの話し合いにおけるコミュニケーションツールとして低学年という発達段階にとっても合っていた。音楽に限らずさまざまな活動において活用していきたい。
- (3) 個に応じた支援の工夫 (第 6 学年音楽科の実践)
  - ・リズムパターンのカードを掲示したことが、リズム伴奏作りのヒントとなっていた。音符を読むのが苦手な児童もカタカナで読み仮名がふってあり、わかりやすかった。各グループを回って練習の様子を見ながら、友達が考えたリズムをうまく演奏できない児童には一緒にリズムをたたいてみるようにした。



課題提示の工夫 (体育科)



学習活動の工夫 (音楽科)



個に応じた支援の工夫 (音楽科)

## 【戸祭小学校】 「ともに学び、ともに育つ」を深めるための言語活動の充実

本校では「学び合い」を成立させるため、コミュニケーション力 (伝え合う力) を高める必要があると考え、その手立ての一つとして言語活動の充実に取り組んでいる。昨年度から継続して「聞き方名人」「話し方名人」の掲示資料を作成し、「聞き方・話し方」の指導・支援に力を入れている。

本年度は、図工科をとおして、児童の「学び合う」場面の設定し、「コミュニケーションする」活動のさせ方について様々な工夫を試みた。

有名な作品の鑑賞だけでなく、お互いの作品についてそれぞれの作者としての「思い」や、鑑賞者としての「思い」への気づきが、自分の作品に生かされていくということが分かってきた。

### 成果と課題

図工という教科の特質を生かしながら「学び合い」の活動を設定するのは、大変参考になった。特に、鑑賞のさせ方について、今まであまり経験したことのないようなそれぞれの工夫された場の設定が、より意味のあるコミュニケーション活動のために役立っていることを実感できた。



2年ぶかぶかゆらゆら



3年靴下、手袋に魔法をかけると



6年墨のうた



1年伝えよう私の好きな形・色



4年ハッピーカード



5年ビー玉、大冒険

## 4 まとめ (成果と課題)

- (1) 成果 「コミュニケーション能力の育成」にかかわる教材研究・授業研究の充実
  - ・各学校で児童生徒の実態に応じた取り組みが行われ、教材研究・授業実践とともに授業研究会が実践され、児童生徒の学習活動に深まりが見られた。
- (2) 課題 「星が丘地域学校園」としての教師の交流
  - ・学校ごとに優れた実践が行われ、教師の授業力も向上してきているが、小一中や小一小の取り組みが十分でないのが実情である。各校で行われた実践を互いの学校で持ち寄り検討したい。今後は教材研究したり授業研究会に参加したりする活動時間を確保できるような工夫が必要である。